



取扱説明書

Version 1.0



株式会社 サウンドハウス
〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3
TEL:0476(89)1111 FAX:0476(89)2222
<http://www.soundhouse.co.jp> shop@soundhouse.co.jp

記号の説明



安全にご使用いただくためにマニュアルの指示に従ってください。



ユーザーに危険を警告しています。製品内の高電圧により、感電の危険性があります。

安全上の重要事項

1. 本マニュアルに記載されている全ての警告と指示に従ってください。
2. 本体を水の近くで使用しないでください。
3. 本体を水または液体の中にいれないでください。
4. 本体に直接エアゾールスプレー、クリーナー、消毒剤や殺虫剤を使用しないでください。メンテナンスは乾いた布で拭いてください。
5. 本体の通気口をふさがないように、マニュアルの指示に従って設置してください。
6. 熱源（ラジエーター、ストーブ、ランプ）などの近くに設置しないでください。
7. 安全のため、アース付きプラグを使用してください。
8. 電源コードは踏まれたり、挟まれる事の無いようにしてください。
9. 電源コードを抜く際は、コードを引っ張らず、プラグ部分を持って引き抜くようにしてください。
10. 製品受領時に外部に損傷（電源コード等を含む）が無いか確認してください。もし製品にダメージが有った場合、ただちに販売店へ連絡してください。修理を行わずに使用を続けると更なる深刻なダメージを被る恐れが有ります。その状況で使用を続けた場合は、保証期間内でも保証外の対応となる場合が有ります。
11. アクセサリーやパーツは、メーカーが定めた物をご使用ください。
12. 長期間使用しない場合や、雷が発生した時はプラグを抜いてください。
13. 電源周りのトラブルや液体をこぼしてしまった時、高い湿度にさらされた時は、販売店に相談してください。そのまま使用を続けたり、無理に自分で修理を試みないでください。
14. 電源コードのプラグは抜き差し可能で、差し込むだけで使用できます。
15. 地域の法律に沿ってご使用ください。
16. 設置について疑問が生じた場合は、販売店に相談してください。

メンテナンスと修理

本製品は最新の電子技術と素材を使用しているため、それに応じたメンテナンスと修理を行う必要があります。機材への影響、使用者へのケガを防ぐためにメンテナンス/修理はJBLの代理店にて行ってください。

目次

記号の説明.....	2
安全上の重要事項.....	2
メンテナンスと修理.....	3
はじめに.....	5
主な特長.....	5
仕様.....	7
開梱とセットアップ.....	9
接続.....	10
各部の名称.....	11
操作メニュー.....	15
メニューリスト.....	16
故障かな?と思ったら.....	21
寸法図.....	22

はじめに

この度はJBL 7シリーズ・スタジオ・モニターをご購入いただき、誠にありがとうございます。
本製品の性能を最大限に発揮させ、末永くお使いいただくため、ご使用になる前に、この取扱説明書を必ずお読みください。

主な特長

JBL 7シリーズは、JBL が定めたプロの要求に応える再現性と信頼性を持つスタジオモニターです。業務用機器に要求される高性能トランスデューサーとネットワーク・テクノロジーを搭載し、再現性の高い周波数特性と拡張された低域、高いSPLを実現しています。また、特許取得済み Image Control Waveguide は高い再現性と素晴らしいリスニング体験を提供します。さらに、プロの制作現場で使用されている周波数領域を持つアナログとデジタルソースとのインターフェースを搭載し、プロフェッショナル音響技術を使用した、他に類をみない次世代のスタジオモニターとなっています。

JBL 専用ドライバー

幅広いダイナミックレンジと拡張された周波数特性を持つ JBL 専用ドライバーを搭載しています。JBL2409H 高域コンプレッションドライバーは革新的な小型アニール処理をしたダイアフラムを採用し、30kHz を超える領域でスムーズなレスポンスを実現しています。JBL725G と 728G 低域トランスデューサーは 30Hz 領域の超低音を生成します。バスレフは低域トランスデューサーとうまく協調し、どの音量でも正確な低域レスポンスを提供します。JBL の特許取得済み「Slip Stream」ポートデザインは音の乱れを最小限に抑え、吊り、デスクトップ置きのどちらでも安定した低音を出力します。

イメージ・コントロール・ウェーブガイド

特許取得済み Image Control Waveguide は印象的なサウンドイメージを作り、密度の高いミックスにおいても細部まで表現する明瞭なサウンド、垂直方向のシームレスなクロスオーバーを実現しています。スイートスポットも広く、ニュートラルなサウンドを部屋のどこにいても聴くことができます。

デュアルアンプシステム

JBL の高出力ドライバー向けにチューニングされたデュアルアンプを搭載。2409H 高域トランスデューサー、725G 低域トランスデューサーそれぞれに 250W のパワーを提供し、広いダイナミックレンジ、ゆとりのある高い音圧レベル (SPL) により、離れたリスニングポジションでもサウンドを楽しむことができます。アナログ入力には感度切替がついていて、

業務用機器、民生用機器どちらでも接続することができます。デジタル入力は、サンプルレートを変更可能なADコンバーターが搭載されていて、デジタルAES3フォーマットに対応しており、192kHzまでのサンプルレート対応業務用デジタル機器を使用可能です。

応用範囲が広いEQとディレイ

部屋の種類によらずにニュートラルなサウンドを提供します。搭載されたルームEQにより、部屋の音響を調整し、どんなリスニング環境においても、正確な再現性を実現します。8種類のRoom EQフィルターに加えて、6種類のユーザフィルターを用意していて、ユーザーがレスポンスカーブをカスタマイズしてXカーブや伝送ロスを変更することができます。例えばスピーカーが映画スクリーンの裏に設置されたときなどに対応することができます。ユーザーが設定できるデジタルディレイは、リスニングポジションに応じてスピーカーの音の遅れを調整し、AVシンクロナイズ・ディレイはビデオ画面と音の遅れを調整します。EQとディレイはファクトリープリセットから呼び出すことができます。また、ユーザープリセットに保存、呼び出しができます。

設置し易いエンクロージャーデザイン

パーティ合板製エンクロージャーは安全に設置しやすいように設計されています。壁への取り付けや吊りは別売のブラケットを使用して行います。持ち運びに便利なハンドルが用意されています。(708Pのみ)

JBLが提供する高い信頼性

生産前の設計段階において、7シリーズは過酷な連続テストを行うことになっています。フルパワーでエラー無しに100時間連続音を出し続けることが求められ、これにより高い信頼性を確認しています。

仕様

モデル	705P	708P
LFドライバー(ウーハー)	5 インチ(127mm)	8 インチ(203mm)
HFドライバー	1 インチ(25mm)	1 インチ(25mm)
HFドライバータイプ	JBL2409H コンプレッションドライバー	
クロスオーバー周波数	1750Hz	1700Hz
パワーアンプ構成	バイアンプ	バイアンプ
パワーアンプ(HF)	250W クラス D	
パワーアンプ(LF)	250W クラス D	
周波数特性(+/- 3dB)	45Hz - 25kHz	41Hz - 25kHz
LF 周波数拡張(- 10dB)	39Hz	35Hz
HF 周波数拡張(- 10dB)	32kHz	31kHz
最大音圧レベル(連続)	101dB	108dB※
最大音圧レベル(ピーク)	107dB※	114dB※
最大ピーク入力レベル (-10dBV/+4dBu)	+9dBV/+23.3dBu	
T.H.D	0.1%THD @ 1kHz/2.83VRMS 出力 <0.5% THD @ 1kHz, 最大出力	
S/N 比(HF)	92dBA(AA-Weighted)、83dBr(unweighted) 2.83VRMS 相対出力	
S/N 比(LF)	85dBA(AA-Weighted)、80dBr(unweighted) 2.83VRMS 相対出力	
アナログ入力コネクタ	バランス XLRx1	
デジタル入力コネクタ	バランス XLRx1	
デジタル出力フォーマット	AES3	
デジタルパススルー出力	XLRx1	
デジタルオーディオ サンプルレート(±1%)	44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、176.4kHz、192kHz	
ルーム EQ	8 パラメトリック・フィルター	
ユーザーEQ	4 パラメトリックフィルター、HF シェルフ、LF シェルフ	
ルームディレイ	18ms	
フレーム(A/V)ディレイ	150ms	

A/D、D/A コンバーター	24 ビット/192kHz A/D、32 ビット/192kHz D/A	
内部プロセッサ	32 ビット Floating Point。192kHz サンプルレート	
ネットワーク	Harman HiQnet™ RJ45	
電源	AC100-240V、50 - 60Hz、±10%	
エンクロージャー	JBL SlipStream™ ポート(特許取得済み)採用	
材料	9mm バーチ合板	12mm バーチ合板
寸法(WxHxD)	268x151x274mm	441x250x312mm
質量	5.7kg	11.5kg
※:フルバンド・ピンク・ノイズ、C-Weighted		

開梱とセットアップ

輸送時の破損がないことを確認してください。万一破損が確認された場合は、配送業者と発送元にご連絡ください。

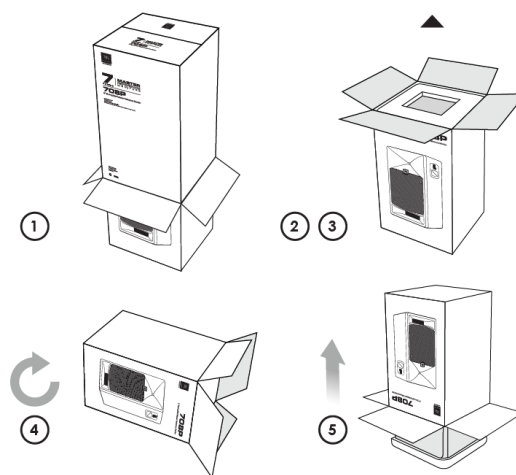
梱包には次のものが含まれています。

1. スピーカー本体 x1
2. 電源コード x 1

開梱

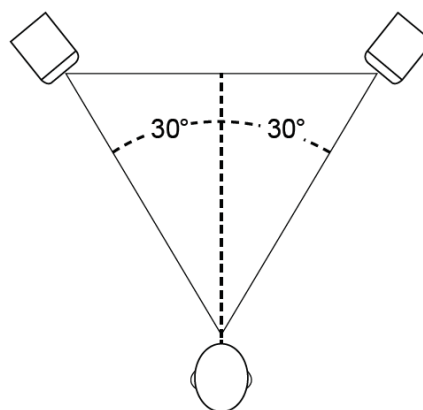
開梱は次の手順により行ってください。

1. 上下を確認して内箱を取り出してください。
2. 内箱の上蓋を開けてください。
3. 電源コードを取り出します。
4. ゆっくりと上蓋が下になるようになるように回転させます。
5. 箱を抜いてスピーカーが見えるようにします。最後にスピーカーをトレイから外します。



設置

- HF トランスデューサーが上になるようにスピーカーを垂直方向に立てます。
- 机の上に置くよりも、できる限りスピーカースタンドにセッティングすることを推奨します。スピーカーへの機械的な接触を少なくし、共振を防ぐことができます。
- 最適化されたサウンドイメージを得るために、スピーカーは、左右対称の位置に置いてください。左右のスピーカーがそれぞれ隣接している壁から同じ距離、対向面から同じ距離になるように設置します。
- リスニングポジションと左右のスピーカーが正三角形を作るようにします。左右のスピーカーの距離はリスニングポジションで聴く低音の品質に影響します。実際にスピーカーの位置を動かしながらお好みの低音、サウンドイメージが得られるように調整することができます。



最後に実際にステレオ音源を再生して、リスニングポジションをスイートスポットに置き、ボーカルと楽器の音がスピーカーの定点から聞こえるように調整します。

- リスニングポジションは好みや部屋の音響特性、聴きたい音圧（最大 SPL）に応じて決めることができます。スピーカーの最大 SPL@1m は 7 ページの仕様に記載されています。リスニングポジションからの距離を倍にすると、音圧は無反響の部屋で 6dB、反響が強い部屋では 3、4dB 下がります。

接続

アナログオーディオ信号接続

本製品にはアナログオーディオ信号接続用バランス XLR 入力端子が用意されていて、DAW、ミキシングコンソールなどの業務用オーディオ機器をバランスケーブルを使用して接続することができます。また、パーソナル・オーディオプレーヤー、AV 機器など民生用機器も接続することができます。高出力業務用オーディオ機器を接続するときは、入力感度を +4dBu に、低出力の民生用機器を接続するときは -10dBV に設定することができます。

デジタルオーディオ信号接続

本製品には 2 チャンネル AES3 フォーマットのデジタル信号を接続する XLR 入力端子が用意されています。隣にはデジタル・パススルー出力端子があり、デジタル入力信号がそのまま出力されていて、別のスピーカーを連結することができます。インピーダンス 110Ω ケーブルを使用することを推奨します。最大 4 台まで JBL7 シリーズを連結することができます。

※モニターする音源はリアパネルから選択することができます。

音出し

全ての接続が終了したら実際に音を出してみます。音源（ミキシングコンソール、レコーディング・システム、プリアンプなど）出力を最低レベルに設定してください。スピーカーの電源を ON にすると少し遅れて電源 LED が点灯し、音を再生できる状態になります。音源のボリュームを上げてリスニングポジションでの音量を確認します。最後にリアパネルのロータリーノブを使用してスピーカーのボリュームを上げます。

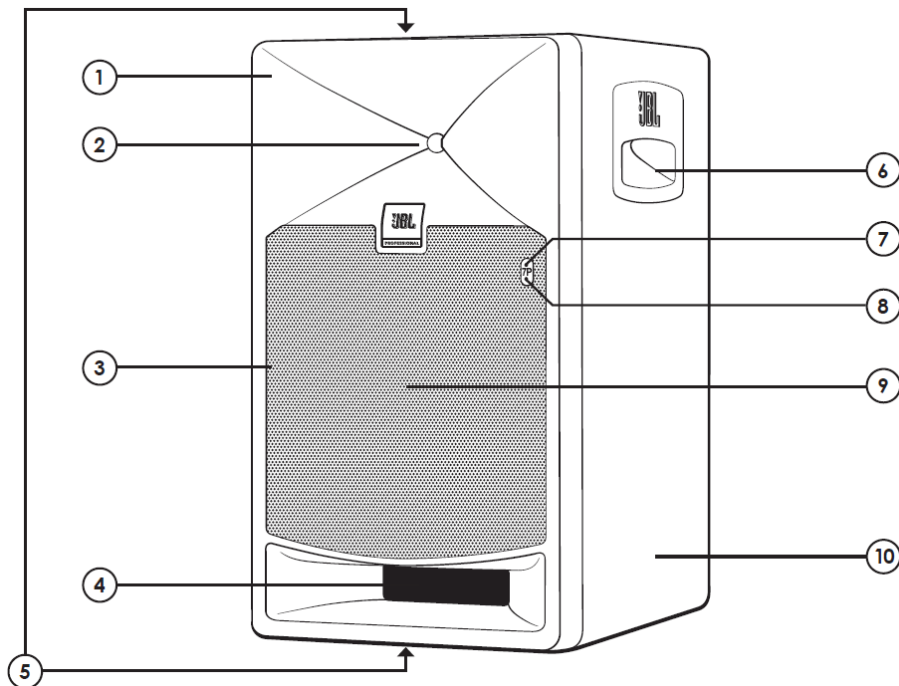
※本製品はソフトウェアにより用途やユーザーの好みに合わせて様々な機能を設定することができます。

パラメーターを初期設定に戻すには

1. 電源を OFF にします。
2. MENU と BACK ボタンを同時に押しながら電源を ON にします。

各部の名称

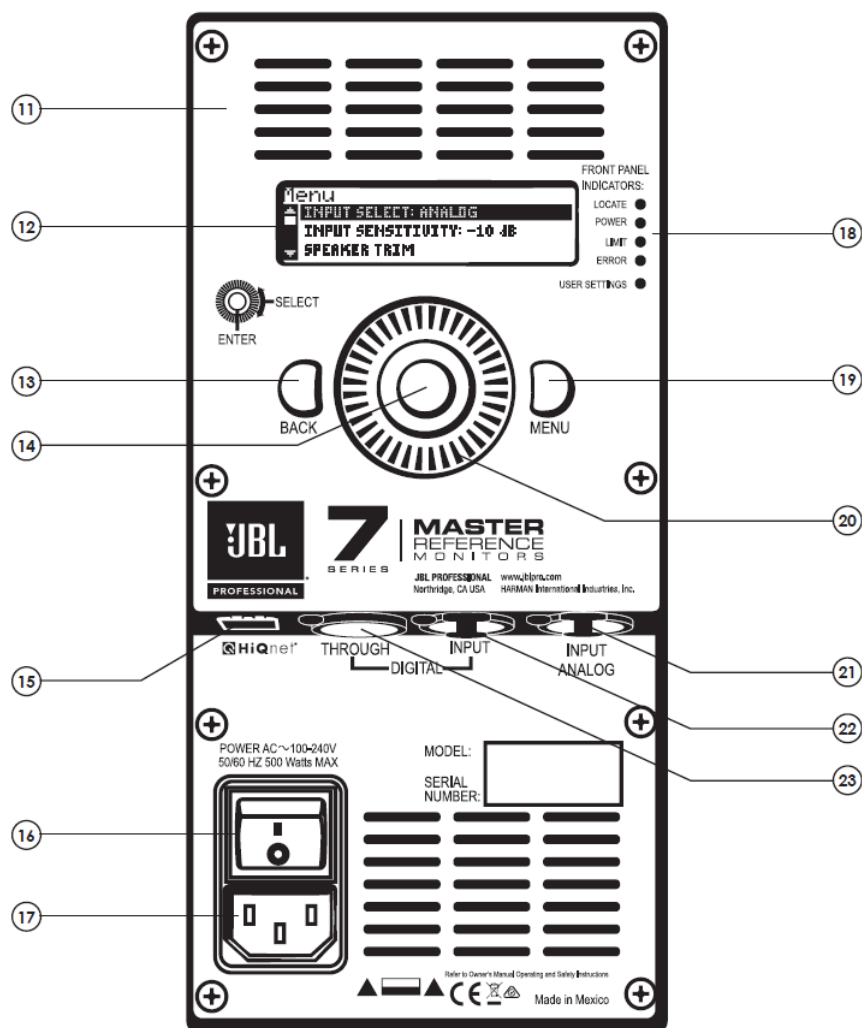
前面パネル



1. ウェーブガイド
7 シリーズ用に特別に設計されたウェーブガイドです。サウンドイメージを作り、ダイレクトサウンドとリフレクトサウンドとの最適なブレンドを作ります。
2. HF トランスデューサー (ツイーター)
高域を再生します。
3. スピーカーグリル
ウーハーを保護します。

4. バスレフポート
特許取得済み JBL Slip Stream™ ポートはウーハーと一緒に働き、どの音量でも忠実な再現性を実現します。
5. マウントブラケット取付用ネジ穴
マウントブラケット（別売）を取り付けるためのネジ穴です。
6. ハンドル（708Pのみ）
左右両サイドにある持ち運び用のハンドルです。
7. 電源 LED（白）
電源スイッチを ON にすると少し遅れて点灯します。
8. 赤/緑 LED
緑 LED 点灯
BASS MANAGEMENT、ROOM EQ、USER EQ、A/V Delay いずれかのユーザー設定が有効になっているとき点灯します。
赤 LED 点滅
リミッターが動作中です。
赤 LED 点灯
システム異常が発生した、またはデジタル入力を使用中のとき、デジタルワードクロックが中断、または喪失したことを表します。
9. LF トランスデューサー（ウーハー）
低域を再生します。
10. エンクロージャー

リアパネル



11. 通気口

エンクロージャー内の熱を外に逃がすための通気口です。

12. LCD ディスプレイ

画面から各種設定を行います。

13. BACK ボタン

前の画面に戻ります。

14. ENTER ボタン

画面に表示された値を選択し確定します。

15. HiQnet™ ポート

HiQnet™ ネットワークケーブルを接続します。また、ファームウェアのアップデートにも使用します。

16. 電源スイッチ

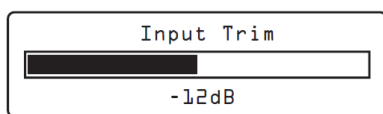
スピーカーの電源を ON にします。

17. 電源コネクタ
電源コードを接続します。
18. FRONT PANEL INDICATORS
システムの状態を表しています。
LOCATE (白) 点滅
HiQnet™ ネットワークに接続しているとき点滅
POWER (白) 点灯
電源が ON のとき点灯
LIMIT (赤) 点滅
リミッターが動作中のとき点滅
ERROR (赤) 点灯
システム異常が発生した、またはデジタル入力を使用中のとき、デジタルワードクロックが中断、または喪失したことを表します。
USER SETTING (緑) 点灯
BASS MANAGEMENT、ROOM EQ、USER EQ、A/V Delay のいずれかのユーザー設定が有効になっています。
19. MENU ボタン
画面にメニューを表示します。
20. ロータリーノブ
回転して画面のメニューをスクロールします。
21. INPUT ANALOG
バランス、アンバランス・アナログ信号を接続します。
22. DIGITAL INPUT
AES3 フォーマットデジタル信号を接続します。
23. DIGITAL THROUGH
DIGITAL INPUT 信号がそのままスルー出力されます。

操作メニュー

MENU ボタン、ロータリーノブ、ENTER ボタン、BACK ボタンを使用して機能の選択やパラメーターの変更、保存ができます。

- MENU ボタンを押してメニューを表示し、ロータリーノブにより機能を選択します。
- ENTER ボタンを押して機能を確定します。
- ロータリーノブを回してパラメーターを選択し、ENTER ボタンを押して確定します。
- BACK ボタンを押して前の画面に戻ります。



ボリュームを上げる

ロータリーノブを時計回りに回して **Input Trim** を減らします。これにより、スピーカーのボリュームは上がります。

ボリュームを下げる

ロータリーノブを反時計回りに回して **Input Trim** を増やします。これにより、スピーカーのボリュームは下がります。

※MENU ボタンを押してメニューを選択した後、一定時間操作をしなかった場合、タイムアウトになり最後に編集した画面に戻ります。タイムアウト時間は **UTILITY** から変更することができます。

メニューリスト

メニューの基本構造

⊙ パラメーター名

▶ [初期値]: 選択肢 (単位)

• **INPUT TRIM**

アンプに送る信号レベルを調整します。ロータリーノブを時計回りに回して **Input Trim** を減らします。これにより、スピーカーのボリュームを上げます。

⊙ INPUT TRIM

▶ [0dB]: -24dB~0dB (0.1dB 単位)

• **INPUT SELECT**

モニターする入力を選択します。

⊙ INPUT SELECT

▶ [Analog]: AES Ch1; AES Ch2; AES Ch1+Ch2

• **AES LEVEL TRIM**

AES 信号レベルを調整します。

⊙ AES LEVEL TRIM

▶ [0dB]: -24dB~+24dB (0.1dB 単位)

• **INPUT SENSITIVITY**

業務用機器を接続するとき+4dBu、民生用機器を接続するときは 10dBV に設定します

⊙ INPUT SENSITIVITY

▶ [+4dB], -10dBV

- **USER EQ**

用途や好み、音源の種類などに応じて EQ をカスタマイズできます。業界標準カーブ（X カーブなど）を使用してモニターしたり、スピーカーが劇場のスクリーン裏に置かれたときなど、伝送ロスを補正することができます。

USER EQ

▶ Enable

Engaged、[Disengaged]

▶ High Shelf

Frequency

[2kHz] (1/24 オクターブ単位)

Gain

[0dB] (-12dB~+12dB、0.1dB 単位)

▶ Low Shelf

Frequency

[90Hz] (1/24 オクターブ単位)

Gain

[0dB] (-12dB~+12dB、0.1dB 単位)

▶ Parametric EQ Filter 1

Frequency

[1kHz] (20Hz~20kHz、1/24 オクターブ単位)

Q

[1.0] (0.1~12、0.1 単位)

Gain

[0dB] (-12dB~+12dB、0.1dB 単位)

▶ Parametric EQ Filter 2~4

設定と初期値は Parametric EQ Filter 1 と同じ

- **ROOM EQ**

8種類のパラメトリック ROOM EQ が使用可能です。部屋の反響設定、スピーカー間の境界設定、周波数特性をニュートラルに戻すなどです。

- ◉ ROOM EQ

- ▶ Enable

- Engaged、[Disengaged]

- ▶ Parametric EQ Filter 1

- Frequency

- [1kHz] (20Hz～20kHz、1/24 オクターブ単位)

- Q

- [1.0] (0.1～12、0.1 単位)

- GAIN

- [0dB] (-12dB～+12dB、0.1dB 単位)

- ▶ Parametric EQ Filter 2～8

- 設定と初期値は Parametric EQ Filter 1 と同じ

- **FRAME DELAY**

A/V Delay、Lip Sync Delay などのフレームディレイを入力信号に適用し、オーディオと画像を同期させ画面で起こるディレイを補正します。

- ▶ Bypass

- Engaged、[Disengaged]

- ▶ Delay

- [0ms] (0ms～150ms、1.0ms 単位)

- **SPEAKER DELAY**

各スピーカーに適用し、最も離れたスピーカーと全く同じタイミングで音が出るように各スピーカーへ送る信号のディレイを設定します。

- ▶ Bypass

- Engaged、[Disengaged]

- ▶ Delay

- [0ms] (0ms～150ms、1.0ms 単位)

- **BASS MANAGEMENT**

選択した周波数にハイパスフィルターを適用します。サブウーファーが使用されているとき便利な機能です。

- BASS MANAGEMENT**

- Bypass**

Engaged、[Disengaged]

- High-Pass Frequency**

60Hz、70Hz、[80Hz]、100Hz、120Hz

- **PRESETS**

6つのファクトリー・プリセットと6つのユーザープリセットが用意されています。ユーザープリセットにはユーザーが設定したEQとディレイパラメーターが保存できます。

- PRESET**

- Load**

ファクトリー・プリセットをロード

[1]、EQ Flat

2 : LF Boost

3 : LF Cut

4 : HF Boost

5 : HF Cut

6 : HPF

- Save**

ユーザープリセットをロード

[Preset 1] (Preset 2~Preset 6)

プリセットはロータリーノブと **ENTER** ボタンによっても設定できます。

ENTER ボタンを押してロータリーノブの機能を変更することができます。

1回押すとカーソル移動、もう一度押すと文字変更モードになります。

- **SPEAKER SELECT**

リストから選択したスピーカーに対してチャンネル名を割り当てます。

- SPEAKER SELECT**

- [Left]; Center; Right; Left Side Surround; Right Side Surround; Left Rear**

Surround; Right Rear Surround; Left Front OH Surround; Right Front OH Surround;

Left Rear OH Surround; Right Rear OH Surround

- **FRONT PANEL LED**

フロントパネル LED を点灯しないようにします。

- **FRONT PANEL LED**

- ▶ [Enabled]; Disabled

- **NETWORK CONFIGURATION**

ネットワーク設定を行います。

- **NETWORK CONFIGURATION**

- ▶ Settings

- IP Address

- MAC Adress

- Subnet Mask

- Gateway

- ▶ EDIT DHCP Setting

- [DHCP]; Manual IP]

- IP Address

- MAC Adress

- Subnet Mask

- Gateway

- **UTILITY**

- **UTILITY**

- MENU TIMEOUT**

- MENU ボタンを押してメニューを選択した後、一定時間操作をしなかった場合、タイムアウトになり最後に編集した画面に戻ります。タイムアウト時間を下記から変更することができます。

- ▶ MENU TIMEOUT

- Immediate (直ぐに戻ります)

- 5 Seconds

- 15 Seconds

- 30 Seconds

- 45 Seconds

- 1 minute

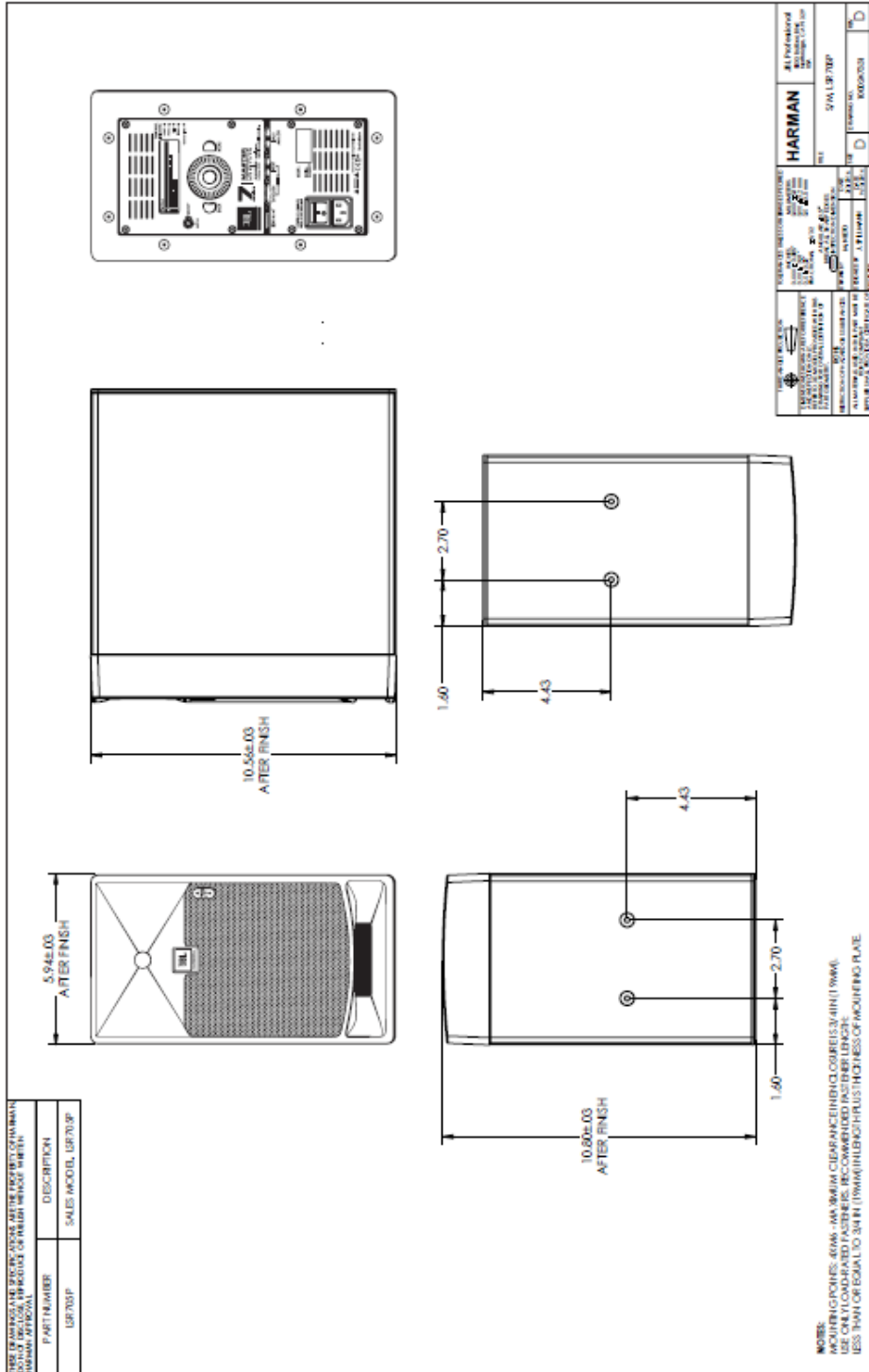
- Disabled (戻りません)

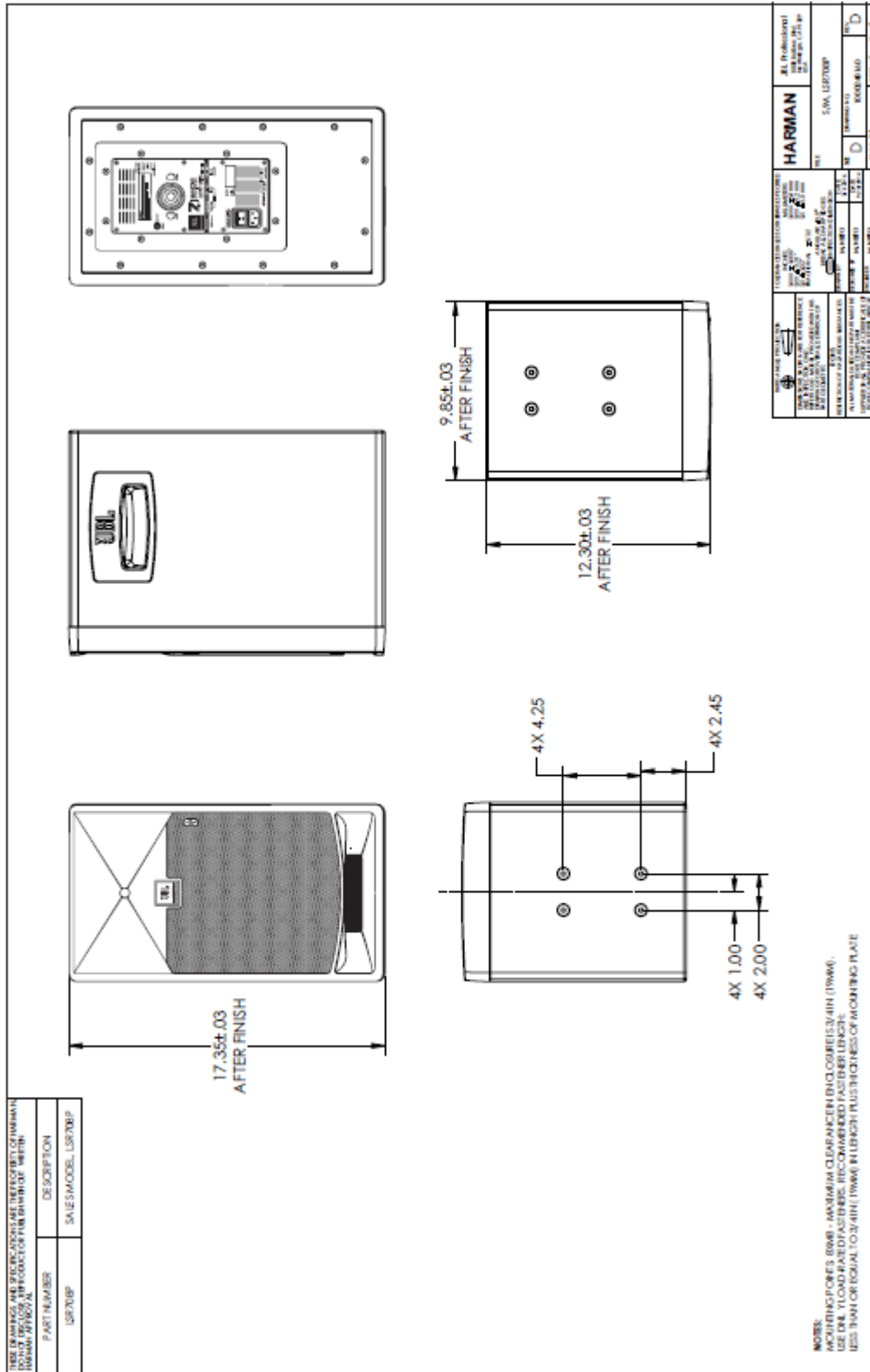
故障かな？と思ったら

症状	原因	対策
電源がONにならない	電源コードがコンセントに差し込まれていない	電源コードをコンセントに差し込んでください
	電源スイッチがONになっていない	電源スイッチをONにしてPOWER LEDが点灯することを確認してください
	電源コードに不具合がある	正常な電源コードに交換してください
	コンセントの電圧がAC100V以下になっている	コンセントの電圧がAC100Vになっていることを確認してください
電源がONになっているのに音が出ない、または非常に小さい	スピーカーのマスターボリュームやゲインが小さすぎる	スピーカーのマスターボリュームやゲインを上げてください
	機器の接続に問題がある	機器を正しく接続してください
	接続ケーブルに不具合がある	正常なケーブルに交換してください
	プリセットに問題がある	プリセットを初期設定に戻してください

寸法図

705P







※この取扱説明書に記載されている商品名、会社名などは、その会社の商標登録です。
また、掲載されている図、写真などの著作権はその会社にあります。